

道

2020年7月1日
(第59号)



小田川

Tさん。僕がケアマネ勤務する法人の代表で、ケアのよき実践者として振り仰ぐ頼もしい人。彼女は、歳を重ねた方たちが抱える困難に寄り添い、共に悩み、「いのちの輝きのために常に何かに挑んでいるような人として、僕には映る。それでいて、尊大なところが無く、普通の優しい「おばさん」(失礼!)なのよ。▼Tさん達がマスコミに頻繁に登場してその活動が広く知られるようになったのは、真備水害後のいろいろな取り組みによってであろう。しかし、彼らの実践は、水害のずっと前から続けられ培われたケアの理念(ケアの哲学)に基づくものであるのだ。「ぶどうの家」に掲げられている「在宅にこだわる。自分たちの都合で投げ出さない。目の前のその人を支える。どこでどのように暮らしたいのか一緒に考え楽しむ」にその真髓の一端を見る。▼「コロナ禍」で「新しい生活様式」が提唱された。新型コロナウイルスにかからない、うつさない、感染防止に必要なことが述べられている。もっともなことだ。しかし、僕には、こうした上からの押し付け的な物言いが、「自粛警察」の横行などとともに気にかかる。▼うわべだけの新しさや生活様式はすぐに忘れられる。ほんとうに「新しい」ものは、生活を深く本質的に見極めることを通してしか育たない、とT(津田由起子)さん達を見ていて思う。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林 道 也

※ 当分の間、facebook 系SNSの利用を控えます。ヘイトスピーチや米大統領投稿への不適切な対応など、不信感が拭えません。



遠田 椋の木